

RIETI BBLセミナー
宮川努教授
コロナショックと日本経済
—1年間の評価と今後の展開—
コメント

2021年5月13日

中田大悟

(RIETI上席研究員)



本書の緊急出版の意義

- 日本経済にとってのコロナショックとは何か
- 産業、医療、労働のデータ分析が明らかにする現実
- EBPM時代における経済分析の即応性、有用性を確認
- 日本経済の長期的視点からコロナショックを位置づけ
- これからの日本経済のbig-picture viewを提供
- これらをコンテンプラリーに取りまとめた歴史的価値

本書の分析が問いかけるもの

- 各分析の内容や含意の紹介は本日のご講演におまかせするとして、ここでは、より俯瞰的な感想を
- パンデミックのような突発的危機にこそ必要な経済データ分析
- 多様で柔軟な分析手法(経済学に組み込まれたSIR分析など)
- これまでの分析の蓄積が危機において意味をもつ
- 危機前と危機後に明らかになったことの連続性
- そこから見えてくるコロナ危機最終局面の課題
- ポスト・コロナ時代に向けた政策のあり方

経済分析とコロナ対策

- 迅速な分析が求められた新型コロナパンデミック
- 医学、疫学分析の即応性に学ぶこと
- 一般的に経済学はデータの利用可能性のタイムラグ
- 政策立案と評価の同時進行が求められる
 - 産業連関分析による産業別、地域別ダメージの洗い出し
 - 企業活動、倒産情報による支援策評価
 - 労働市場の動向と働き方改革から見える政策課題
 - 感染症モデルによる非医学的介入と経済損失
 - 国際比較によって明らかになる日本の特異性

コロナ時代: 最終局面の経済政策

- ここから少しディスカッションめいた話題に
- ワクチン接種本格化と同時に迫る感染拡大(変異株、コロナ疲れ)
- ワクチンが功を奏した国(イスラエル、英国他)の経験(ロックダウン等のNPI介入とワクチン推進のダブルトラック)
- おそらく今後も一定は必要となる経済行動の抑制
- それらのショックを緩和する経済政策の議論は低調のように思える
- 少なからぬ産業、事業者が限界を迎えている可能性
- 今、求められる政策、拡張すべき対策とはなにか

ポスト・コロナの経済政策

- コロナ危機が突きつけた日本の課題(本書のテーマのひとつ)
- 見直しを迫られる政府の役割
- これまでは効率性の追求に高いプライオリティ
- 政府の強い役割(科学技術政策、格差是正、医療等)への期待
- 財政規律と経済回復の両立
- コロナ禍を経て中国の台頭は確固たるものに
- 開かれたグローバル経済の中で、日本の経済安全保障をどう確立するのか

ありがとうございました